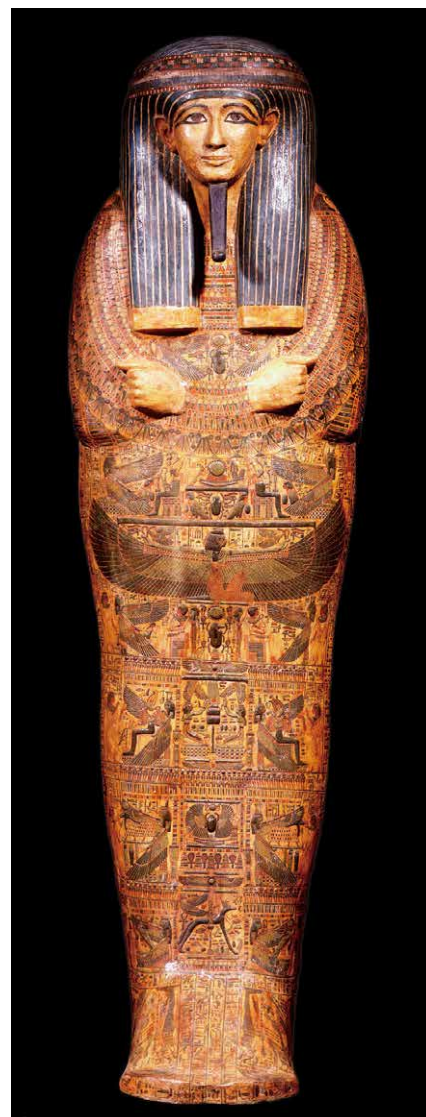


兵庫県立美術館  
ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展  
2021年11月20日(土)～2022年2月27日(日)

現代の日本に生きるわれわれにとって、川の氾濫を防ぐ治水事業は、生活基盤を支えるうえで欠かせぬものと考えられています。一方、今回の展覧会の舞台となるエジプトでは、1970年に完成した巨大なアスワン・ハイ・ダムによって、ナイル川の定期的な氾濫は発生しなくなりましたが、このことは、いわゆる「古代エジプト文明」と称する文明が、完全に過去のものとなってしまったことを意味します。

いにしへのエジプト文明は、ナイル川の定期的な氾濫がもたらした流域の肥沃化による、多大な恩恵の賜物です。今回ご紹介する「古代エジプト展」は、数千年もの前に興ったこの空前絶後の文明を、大英博物館やルーヴル美術館、イタリアのトリノ・エジプト博物館、ベルリン・エジプト博物館と並ぶヨーロッパの5大エジプト・コレクションを誇るオランダ、ライデン国立古代博物館の所蔵品から厳選した、ミイラや副葬品を含む約250点の展示品によって構成する展覧会です。同館が所在するオランダでは、すでに17世紀にエジプトを訪れた旅行者たちがスフィンクスやギザのピラミッドを紹介していました。その後、18世紀末から19世紀初頭にかけてのナポレオンによるエジプトの軍事遠征と、その後のシャンポリオンによるロゼッタ・ストーンの解読によって、古代エジプトの遺跡発掘が盛んになり、現代に至るまで、その魅力と関心を全世界に発信し続けています。

本展では、ライデン国立古代博物館の全面的な支援のもと、遺跡発掘を皮切りに、現代科学を駆使したCTスキャンによって解明されたミイラの謎に迫る過程に至る流れによって、古代エジプト文明の魅力をさまざまな視点から紹介します。とりわけ本展の見どころとなる、同館が近年導入した棺を立てた状態での展示に、どうぞご期待ください。



《アメンヘテプの内棺》第3中間期  
(蓋)長さ185cm、幅50cm、高さ35cm



兵庫県立美術館  
学芸員 相良 周作



《パディコンスの『死者の書』》第3中間期 縦24.5cm、横61.2cm  
All images © Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

※予約優先制です。チケットのご購入とは別に入場日時の事前予約をお願いします。詳細は展覧会公式サイト(egypt-leiden-kobe.com)にてご確認ください。

※この特別展はみなと銀行文化振興財団が助成しています。